

レジデント教育プログラム ― 認知行動療法研修・実践コース―

1. プログラムの目的と特徴

本コースの特徴と目的は、認知行動療法に関する質の高いスキルを身につけ真に認知行動療法を臨床実践できる医師を育てることである。さらに、希望者には認知行動療法に関する研究の機会を提供し、本領域における研究能力を習得することを目的とする。精神科医師歴3年以上の者を主な対象とする。なお、本プログラムについては、希望に応じて柔軟にアレンジすることが可能である。



臨床心理部長 野田隆政

2. 研修内容と到達目標

研修期間中には、臨床心理室所属の医師として、個人及び集団認知行動療法に関わり、supervisionを受けながら実際の症例を通して認知行動療法を習得する。精神科外来及び入院診療に従事するとともに、精神科リエゾン(脳神経内科領域の患者の精神的ケア)、復職支援(リワークデイケア)における認知行動療法を実施する。診療業務を通して、精神保健指定医資格取得のためのケースを経験することができる。

本コースの到達目標は、個人 10 例以上、集団 20 例以上の症例経験を積み、幅広い疾患に対して認知行動療法の治療計画を作成し実践できる能力を身につけることである。経験可能な症例は、うつ病、不安障害、強迫性障害、PTSD、パーソナリティ障害、発達障害、睡眠障害、精神病性障害等である。なお、本コースの研修期間は、2 年を原則として 1 年の延長が可能である。本コースでは、厚生労働省 認知行動療法研修事業「うつ病の認知療法・認知行動療法ワークショップ」に参加し、当研修事業で実施する個別 supervision、認知行動療法センター及び臨床心理室が主催する認知行動療法研修に参加することができる。研究を希望する者は指導を受け、研究計画を立案、研究費の獲得、研究の実施、論文作成を行うことができる。また、研修期間中に連携大学院に進学し学位取得を目指すことも可能である。

<週間スケジュール例>

	月	火	水	木	金
朝	スタッフミーティング*	スタッフミーティング*	スタッフミーティング*	外勤日	スタッフミーティング*
午前	再診 (認知行動療法)	初診グループ療法 (supervision あり)	初診 (認知行動療法) (精神科リエゾン)	外勤日	supervision 9:30～CBT センター 強迫性障害 10:30～CBT センター 不安障害 11:30～CBT センター PTSD

	月	火	水	木	金
昼		ランチョンミーティング (supervision)	ランチョンミーティング (モジュールカンファレンス)	外勤日	ランチョンミーティング (supervision)
午後	再診 (認知行動療法) (主にうつ病) ケース検討会	グループ療法 (発達障害) (主に不安障害)	再診 (認知行動療法) (研修助手)	外勤日	再診 (認知行動療法) (主に強迫性障害)

3. 指導医リスト

1) 臨床心理部 部長:

野田 隆政

山梨医科大学 平成 13 年卒、医学博士

日本精神神経学会認定精神科専門医、指導医

2) 認知行動療法センター センター長:

久我 弘典

大分大学医 平成 18 年卒

九州大学大学院 平成 29 年卒、医学博士

米国ジョーンズホプキンス大学大学院 平成 30 年卒

日本精神神経学会認定精神科専門医、指導医

厚生労働省認知行動療法研修事業スーパーバイザー

3) 精神リハビリテーション部 臨床心理室長:

今村 扶美

慶應義塾大学 平成 11 年卒

東京都立大学大学院 平成 13 年修了

公認心理師